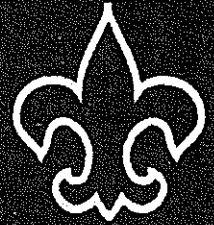


REINANZAKA SCOUT CLUB



スカウトOB・OGの情報交換や交流の場 / 2002年11月30日発行

霊南坂スカウトクラブ

霊南坂スカウトクラブ：霊南坂教会内 107-0052 東京都港区赤坂1-14-3 電話：03-3583-0403

チャペルコンサート

ブラウニー・リーダー
福島 香織

10月26日(土)のバザーでは、ブラウニーは例年どおり礼拝堂でチャペルコンサートを開催しました。

チャペルコンサートは、ブラウニーもバザーで何かできることがあればという思いと、普段の集会

でブラウニーがどんなことをしているかを皆さんに知っていただこうと毎年行っています。

今年は9月から新しいスカウトが2名入りました。彼女たちの入団式も取り入れられるように、4月の入団式で毎年やるブラウニー物語の続編ということで「続・ブラウニー物語」というテーマで劇と

歌を交えて行いました。

二人の女の子が森の中で遊んでいるとブラウニスカウトと遭遇し、キャンプファイアーの仲間に入れてもらいます。女の子たちは自分たちもブラウニーになりたいと思います。

リーダーからブラウニータイをもらい、晴れてブラウニスカウトになるというあらすじです。

キャンプファイアーの場面では、
(次ページへ続く)



(次ページからの続き)

「もえろもえろ」に始まり、「キャンプだホイ」「ロックマイソール」「T I R O」などキャンプファイヤーでおなじみの曲を歌いました。

最後に、全員でピアノの伴奏にあわせて何曲かの歌を披露しました。

「ローゼパーフン」「たのしく こえをあわせて」などブラウニーリーダーの知らなかった曲も矢澤宏子リーダーに教わり、歌いました。「ハイデル」「おさななじみ」「やさしいひめゆり」などを歌い、「さよならブラウニー」で終わりました。

「もう少し曲数を増やしてほしい」という声を、来てくださった方から毎年いただいていたので、今年は曲数を多くしました。普段の集会で歌っている曲を中心にしましたが、この機会に覚えたものも何曲か取り入れました。

練習時間が十分に取れないまま



本番を迎えてしまいましたが、スカウトたちはおきな声で元気に歌うことができました。来てくださった方には、ブラウニーの集会の雰囲気を感じていただけたのではないのでしょうか。

コンサートにいらしていただいた方々、お手伝いくださった方々ありがとうございました。今年は来られなかったという方も来年はぜひいらして下さい。

兄弟姉妹団の紹介

霊南坂との縁

飯田 誠子

霊南坂スカウトクラブと私との関りは、私が飯田貞雄（霊南坂スカウトのOB）の妻であるということから始まりました。

私自身は霊南坂スカウトのOGではありませんので、正確に言えば準会員というところでしょうか。でも、入会のお誘いを私の所にも送って下さいましたので、私は夫の身代わりの様な積りで、即入会し、会員になりすましております。

そこへ今度は、塚田様からこの原稿の依頼。「この団から外へ出て他団で活動しているリーダー」という琴で、何か妙な気持ちなのですが、有無を言わさぬ塚田様の機関銃の様なお言葉に圧倒されて「まっ、いいか」と筆をとっている次第です。図々しさの程はご容赦を。

夫、飯田貞雄は14年前の1988年4月に他界致しましたので、このスカウトクラブの事は知りませんが、生きていましたら、きっと何らかのお手伝いをしていることでしょう。

夫は戦後間もなくの頃、ここのBSに入隊し、小崎牧師様、今井隊長、田中団委員長、今田様、小崎様、志水様、遠山様、杉原様等々数多くの素晴らしい指導者、先輩、同輩、後輩スカウト、ガールスカウトの方々に囲まれて、非常に楽しいスカウト活動を送っていた様です。その頃の事をよく家族にも話してくれていましたので、4団の「団歌」や『清水のせらぐ…』などは、家族中がよく歌っておりました。

霊南坂教会とは私もご縁があり

まして、私が生まれた頃は東京に住んでいましたので、両親は霊南坂の教会員でした。ですから私も霊南坂教会の「日曜学校幼児科原簿に登録ス」という古めかしい證書（昭和十年の日付、牧師名小崎道雄、校長白井畏三の記名）なるものを未だに手許に持っております。

その後、父は転勤で広島や門司に移り、再び東京に戻って来た時は第二次大戦の真っ最中、敵国の宗教であるキリスト教など御法度で教会どころではなく、戦後もそのままずっと教会にはご無沙汰しておりました。

ところが昭和34年、私がお見合い相手である飯田を父に紹介し、話すうちに、彼が霊南坂のBSであることを知り、父は大喜び、これがきっかけとなって又霊南坂の教会員に復帰したのです。

私達の結婚式も霊南坂で挙げて頂き、それから4年程、夫はこちらでスカウト活動を忙しくしておりました。1964年（昭和39）東京オリンピックの年に、夫は山梨大学

に職を得て甲府に移り住みましたが、それからは山梨県下にBSを増やす事にかなり努力した様でした。それに加え日本連盟の委員もいくつかしておりましたので、土日と言えは留守。我家はスカウトウイドウ家族でした。(尤も父親がBSをしていれば皆そうだったのでしょうが)

娘二人も小学生になると当り前のようにガールスカウトに入りました。入団したのは山梨1団。入団して10年程経った頃、1団のジュニアのスカウト数がとても多くなり、分団しなければならなくなりました。でもおいそれと指導者が見つかりません。やむなく当時団委員をしていたメンバーに加えて、他に3~4人が指導者養成講習を受けて指導者となり発団しました。その時たまたま団委員であった私もその一人だったというわけです。

現在私は、甲府市にあるガールスカウト山梨県支部第13団のブラウニーリーダーとして活動しております。13団は来年25周年を迎えますが、スカウト数はずっと15人~30人位のこじんまりした団です。

これといった特徴のある活動は特にありませんが、キャンプ、募金、地域行事に参加という恒例のもの他に、新年のお茶会と老人ホーム訪問(年2回位)は、ずっと毎年行っています。

お茶会は、お茶の先生に来て頂いて、所作一般からしっかり教えて頂くので、緊張感もありスカウトにも好評です。

老人ホームではなかなかコミュニケーションを取るのがむづかしいのですが、入所者の方達は子供がウロチョロしているだけでも気が晴れるらしく、一緒に折り紙をしたり、歌をうたったり、ハンドベルを聞いてもらったり、おやつを配ったりして喜ばれています。

又、国際団の東京15団と、今迄に5回程交流してお互いにホームステイしたり、横田基地の中



に泊まったり、ぶどう狩りをしたりで楽しんでいます。父母同志も仲が良く、バザーの時などの結束力は見事なもの。唯、悩みはリーダーになるところまでスカウトが育ってくれないことです。というわけで元・若いリーダーが孫の様なスカウトをみているという具合ですが、ここ2、3年若いお母さんリーダーが引き継いでくれそうなので、そろそろバトンタッチ、という思いがある一方、この年でスカウト達とむきになってフルーツバス

ケットの椅子を取りっこしたりできるのは、やはり現役の醍醐味かなとも思っています。(もう時間の問題でしょうが)

毎週会っているとそれ程変わっていく様に思えないスカウト達も、一ヶ月、一年経てば精神的にも身体的にも目を見張る様な成長ぶりを見せてくれます。この成長の中にガールスカウトで得られたものが、いくらかでもプラスされている事を期待しながら何らかの形で見守って行けたらいいですね。

次世代への責任

佐藤 禮子

半世紀前、アメリカのスカウトとの交換会で、初めてココアを口にした時のあの葉臭さと、大きな冷蔵庫から出てきたアイリーの美味しかったことは今も鮮明に覚えています。

子ども時代憧れたアメリカ人の生活はその後間もなく私たちの暮らしにも登場してきました。テレビ、洗濯機、冷蔵庫、自動車、掃除機、電子レンジ、などなど。

もう戦後ではないと思いきり開発し、プラスチック製品は便利さを売り物に全盛時代を迎えました。大量生産、大量消費、大量廃棄の高度経済成長期、物の豊かさに酔いしれ、消費は美德と使い捨て、後始末を焼却に頼り、目先がきれいならば、とその先など考えない程のうかれた時代でした。

世代は移り今は孫世代がスウェーデンを楽しんでいます。しかし、体内の内なる環境は体質のようになって代々受け継がれているのです。

「黒い赤ちゃん」(明石昇二郎著 講談社) という本が最近出版され

ました。

34年前、西日本を中心にダイオキシンの混じってしまった油をてんぷらや炒め物で食べた1万4千人以上の人達が酷い中毒を起こし、それが今も体内のあちこちでいろいろと悪さをし、苦しんでいるというカネミ油症事件のことが書かれています。

そこには被害者のおかあさんが産んだり、母乳を与えたりした赤ちゃんが「黒い赤ちゃん」だったこと、そして、その赤ちゃんが無事大人になり、おかあさんになった時、又「黒い赤ちゃん」を産んだという、人類が体験したことのない猛毒ダイオキシンの正体、人類への未知なる影響が語られています。

現代人は何十億年という生物の進化の歴史を持つ石油という資源を掘り起こし、化学物質としていろいろに応用し便利さを享受しています。

しかし、私たちの身体はその影響に適応出来ずにいます。最近、身体機能が影響を受け、内分泌が攪乱されていることが解かってきま

した。ガンとかアトピー、喘息、化学物質過敏症、シックハウスなどなどです。

これらのもとになる残留性有機汚染物質(POPs)を削減せねばとEUが調査をはじめ、日本政府も今年8月ヨハネスブルグで開かれた環境開発セミットで同条約を締結しました。

個人でも出来るだけこれらの物質を体内に取り込まないように国連産業開発機構(UNIDO)が下記のことを公式発表しました。

- 食物連鎖の下位に位置するもの(植物・野菜)を食べ、脂肪を避けること。
- 無漂白の紙・個人衛生用製品を選び、塩素で漂白されていないものを使用すること。
- ポリ塩化ビニールのプラスチック製品を避けること。
- 古い電柱(特に木製の防腐薬品が塗られたもの)を庭や建設工事で再利用しないこと。
- POPsの入った除草剤・農薬を使わないこと。

詳細を勉強して自らの責任で自らの内なる環境を守ることは必須課題であり、次世代への責任でもあり、スカウト運動の大切な使命でもあると痛感しています。

(旧姓 長瀬)

クリスマス&忘年会の開催

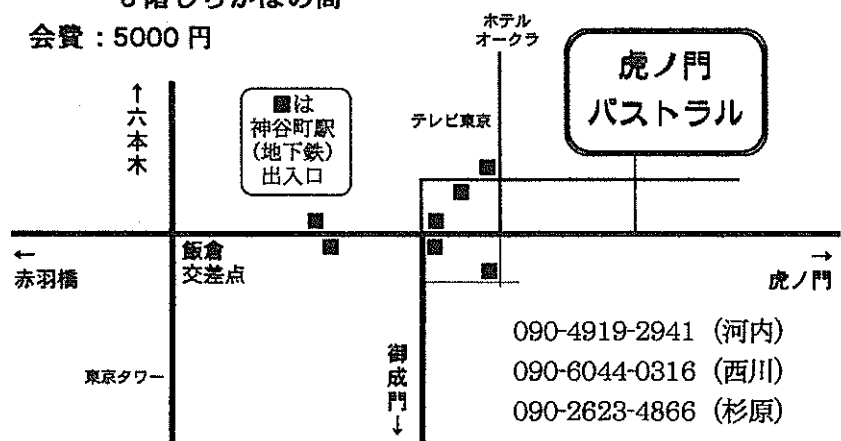
恒例のスカウトクラブ主催のクリスマス&忘年会を開催します。OB、OG、現役リーダー、スカウトの父母も含めた親睦を深める目的の会合です。

恒例のビンゴゲームやその他のゲームや、集会などでスカウト時代に歌った懐かしい歌やクリスマスソングなどを一緒に楽しみませんか?

是非とも予定を入れずにご参加ください。なお、予約はいりませんので、当日時間ができた方でも参加できます。

日時：12月7日(土)
18時30分～20時30分
会場：虎ノ門パストラル
8階しらかばの間
会費：5000円

当日の連絡電話番号を下記します。忙しい方は、たとえ後半だけでも参加ください。



近くて遠い国を訪問して (1)

杉原 正

ボーイスカウト日本連盟やガールスカウト日本連盟及び26の青少年団体が加盟している(社)中央青少年団体連絡協議会(1,100万人)では、その事業の大きな柱としてアジアを中心に青少年や指導者の交流事業を行っており、グローバル化するなかでの国際理解教育はとても大事なことでありと考えております。

今年、私は韓国青少年団体連合会と中華全国青年会のお招きを受けて、韓国には役員5名の首席代表として、また、日中国交正常化30年を記念する年の青少年指導者交流事業として、ガールスカウト、スポーツ少年団、子ども会連合会、日本ユースホステル協会、海洋少年団など20代から60代までの指導者交流の団長として、韓国では5日間、中国は2週間の日程で訪問する機会を与えられ公式訪問してきました。

最近の北朝鮮との国交正常化への動きで様々な課題が山積みしていますが、東アジア(北東アジア)の人権を含めての安全、そして平和への道を探り、実現するためには、大人として時代を担う青少年のために、いまわしい歴史を乗り越えて共通理解、共通認識の道筋の模索に努力を重ねることが必要であることを両国の訪問を通じ痛感しました。

両国の訪問交流のなかで青年層(年齢層としての上限に40~45歳の違いはあるが)との話し合いの中で、自分達の年代が国を導き、担う責任があるとの自負を非常に強く感じました。

経済的には豊になった韓国、沿岸部都市や大都市を中心として豊になりつつある中国でも、日本が抱える、いじめ、不登校、非行の低年齢化、薬物乱用など青少年もんだいでの共通な問題を抱えている

ことを見聞することができました。

韓国との相互の国際交流事業は、これまで青少年団体の指導者交流を中心に、青年・大学生の交流が主体でありましたが、今後はもっと若い年齢層の高校生や中学生の交流を促進したいとの強い意向があります。

すでにボーイスカウトやガールスカウトではその取り組みを始め、青少年団体全体としても両国で協議し実現に向けて努力したいとの協議を行いました。

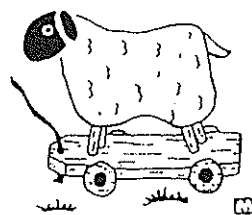
韓国では、青少年の国際理解教育を促進するため、アジアに限らずヨーロッパや旧ソ連邦の国々との交流を韓国青少年連合会が中心となってすすめており、また隣接する中国との青少年交流を高校生レベルでも実施できるよう準備をすすめており、協議の中でこれからの取り組みとして日韓中の3国間での青少年、特に高校生年代の交流を深めたいとの要望があり、

日本としても是非協議しながら実施に向けて努力することを提言しました。

韓国では都市化や少子化がすすむことにより、青少年を取り巻く環境が大きく変化し、またよりよい環境と将来への安心に向けて、子どもや親の強い学力中心の志向が高まり、受験戦争のために青少年のいら立ちが様々な社会問題を引き起こしているとの指摘があり、日本と全く同じような課題をもっております。

一方で次代を担う青少年のための環境づくりに国や行政、そして青少年団体等が積極的、かつ前向きな姿勢が「青少年育成基本法」が国においても制定され、青少年の健全な育成が法律によって促進されつつあることは、日本にとっても学ぶことの多い成果のある訪問でした。

(次号へつづく)



お店紹介

シアトルカフェ

「町を歩けばカフェにあたる」そんな声も聞こえてくるほど、いまやシアトルスタイルのカフェはこの街角にもできて来ました。そんなカフェブームの先駆けとして、今から5年前、横浜に第一号店をオープンしたのが今回ご紹介する“シアトルカフェ”です。

このお店は4団時代のカブ隊の初代デンマザーの一人でもある友常明子さん(旧姓・里見)のお店です。ご存知のシアトルスタイルのコーヒー(エスプレッソベースのカフェ・ラテ等¥280~)と店内で焼き上げたフレッシュベグル(¥150~)を中心にサンドウィッチ、ピザ、マフィン、季節ごとに登場する期間限定商品を含めて、常時約40種類以上の商品が店頭並べられています。

ドリンクメニューのお勧めは、14種類もあるシロップの中から好きなフレーバーから選べる「フレーバーラテ」。ポピュラーなキャラメル・バニラ以外にも、ラズベ

リーやストロベリーといったフルーツ系が人気。

コーヒーが苦手な方には、好きなフレーバーを入れたミルクや紅茶、ハーブティーもあります。ドリンクはすべて、お客様からご注文をいただいてから専門のバリスタが心を込めて作りお出ししているとのこと。

ヨコハマ店は、女子高生からビジネスマン、お年寄りまでが利用しているとのこと、都会の中にもありながら、その喧騒からちょっと間逃れられる憩いの場をイメージした店内、元気で明るいスタッフがサーブします。お買い物の休憩や、お友達との待ち合わせ、ランチ等に向いています。

このシアトルカフェは、「コーヒーには夢がある。夢のあるコーヒーを気軽に飲んでいただきたい」というオーナーの願いが込められているお店。このカフェのオーナー企業は、横浜で30年コーヒー問屋を営んでいるブレンドコーヒー(株)。自社焙煎工場を持ち、専門のスタッフがいて焙煎・ブレンドを研究し続けているとのこと。

シアトルカフェだけのために焙煎・ブレンドされている最高級の豆をしようとした「シアトルカフェ・コレクション」で、まずはお試しく

ださいとのこと。また、コーヒーや紅茶のアレンジギフトもあり、お友達へのプレゼントから内祝い、結婚式の引き出物、ゴルフや各種パーティの景品などに幅広くご要望に合わせてご利用いただけるとのこと。

■お店のご案内

<横浜>

横浜駅西口駅ビル「シャル」店

3Fエレベーター横

045-324-1548

横浜駅ダイヤモンド地下街店

045-322-3325

<東京>

阿佐ヶ谷駅ビル店

03-3337-3761

住所変更 連絡のお願い

前回、皆様に会員およびOB、OGなどの方々住所録をお渡ししてからかなりの年月が経っていますので、この度新しく名簿を作成致しますので、住所変更などをされた方、またOB、OGで住所変更をされた方などをご存知の場合は幹事までご連絡ください。

会員登録されている、いないに関わらず名簿には掲載することとしています。また、会報も毎回送付は行わないこともありますが、毎年1~2度は、非会員の方々へも送付していますので、霊南坂スカウトとして在籍していた方々についてご存知の場合は、是非ご連絡ください。

意見・寄稿を募集中

広く皆様のご意見や寄稿を募集しています。ビジネスに役立つ情報交換を希望される方からのものも掲載していきますので共有できる情報を左記の幹事宛に送付ください。

編集後記

今回は、10月号からそれほど期間がたっていないのですが、前号には掲載できなかったレギュラーな読みものを中心に掲載してあります。

また、現役リーダー達との親睦の忘年会もありますので、是非ご参加を!

霊南坂スカウトクラブ連絡先

入会申込・移転連絡等:

(郵便) 107-0062 東京都港区南青山7-11-5 日下部 宛

(ファックス) 03-3400-0399 (電話) 03-3400-0331

イベント・各種問合せ:

(郵便) 105-0001 東京都港区虎ノ門2-4-2 永山 宛

(ファックス) 03-3431-0192 (電話) 03-3431-0011

(E-mail) shige827@sf6.so-net.ne.jp

会費・ご寄付等:

(郵便) 105-0001 東京都港区虎ノ門1-19-5 杉原 宛

(電話/ファックス) 03-3501-3998

郵便局振込口座番号: 霊南坂スカウトクラブ

00160-1-615237

通信・ご意見等:

(郵便) 150-0021 東京都渋谷区恵比寿西1-33-3-303 河内 宛

(ファックス) 03-3464-8276 (電話) 090-4919-2941

(E-mail) riverys@fancy.ocn.ne.jp